

日本人映画監督 瀬戸桃子氏のチリ訪問と上映会の実施

2026 年 7 月 30 日

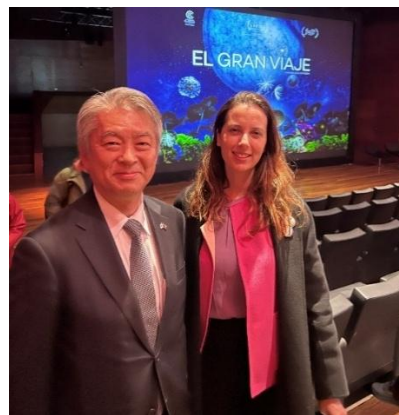
2026 年 7 月、日本人映画監督・ビジュアルアーティストの瀬戸桃子氏がチリを訪問した機会を捉え、サンティアゴ市およびバルディビア市において、日チリの文化・映画分野における交流の促進を目的としたさまざまな行事が実施されました。



『ダンデライオンズ・オデッセイ』（英題：Dandelion's Odyssey、原題：Planètes）は瀬戸監督の長編デビュー作であり、2025 年カンヌ国際映画祭批評家週間において国際映画批評家連盟賞（FIPRESCI 賞）を受賞したほか、アヌシー国際アニメーション映画祭においてポール・グリモー賞を受賞し、国際的に大きな注目を集めています。



曾根大使夫妻、瀬戸桃子監督、ALGA のパス・ラミレス氏とクリスティアン・ヒメネス氏



曾根大使とマルティ GAM 館長

同作品が7月23日からチリ及び中南米地域で一般公開されたことを踏まえ、7月22日、在チリ日本国大使館は、ALGA Estudio およびガブリエラ・ミストラル文化センター（GAM）との協力の下、同作品の特別上映会を開催しました。上映会には瀬戸桃子監督ご本人が出席し、上映後には幅広い年齢層の観客とのトークセッションが行われました。

同セッションでは、瀬戸監督が作品の制作過程や創作のインスピレーションのほか、作品に込められたメッセージや将来の世代のために地球環境を大切にすることの重要性について紹介され、また来場者からは、同作品が制作されるきっかけや監督のお気に入りのシーンなどについて監督本人に質問がなされ、活発な交流が行われました。



映画上映に先立ち、
挨拶を述べる 曽根大使



『ダンデライオンズ・オデッセイ』特別上映会



トークセッションで来場者からの質問に
答える瀬戸監督

『ダンデライオンズ・オデッセイ』は、地球を破壊する一連の核爆発を生き延びた4つのタンポポの種が、新たな故郷を求めて宇宙へ旅立つ物語です。この壮大な旅を通して、生命のたくましさ、自然との調和と絆、希望といったテーマが描かれており、アニメーションと印象的な映像表現が組み合わされています。



ALGA 及びチリの映画・文化関係者と

7月23日、曾根大使は公邸において、瀬戸桃子監督を歓迎するレセプションを開催し、チリの映画監督やプロデューサー、映画・文化・芸術関連団体の関係者、映画配給会社等と交流及び意見交換する機会が設けられました。

同レセプションは、瀬戸監督及び当館とチリの映像専門家とのネットワーキングのほか、映画・コンテンツ制作に関する経験や課題、日チリでの同分野における協力の可能性等について意見交換を行う貴重な機会となり、相互理解を深めるとともに、今後の映画・文化分野での新たな連携へ向けて多数の提案も行われました。



映画監督・瀬戸桃子氏



来場者に挨拶する曾根大使



『クマの物語』(Historia de un oso) でアカデミー賞短編アニメーション賞を受賞したガブリエル・オソリオ監督と